

ポローニア

paulownia



カセットラックとシンプシェード：技術・家庭(技術)中学一年(右上)、
工芸科CG作品：高校二年(右下)、美術科作品：高校二年(左上)、
調理実習作品：技術・家庭(家庭)中学三年(左下)(附属駒場中・高等学校)



目次

教育局次長挨拶

巻頭言「春とともに学校生活が始まりました」◆濱本悟志……2

平成30年度 附属学校教育局主催

教員研修会・附属学校研究発表会を開催

◆東京キャンパス事務部学校支援課・企画推進課……2

第44回日本東洋医学系物理療法学会が開催されました

◆徳竹忠司……3

第5回SGH研究大会・第22回総合学科研究大会を開催

◆建元喜寿……3

創立130周年記念行事◆栖原 昂……4

トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム(タイ留学)

◆石井裕志……4

ダンス発表会で「破」るもの◆今西智津子……5

ハンドサッカー大会2連覇◆佐々木高一……5

主権者教育(高等部生徒会役員選挙)について

◆大宮弘恵……5

筑波大学の現在を知る：中学3年生筑波大学訪問

◆須田智之……6

沖縄修学旅行～高等部普通科2年～◆長島素子……6

～季節行事(餅つき)を通した親子交流会～

◆加藤 敦……7

「未来」でなくなったICT活用◆青山由紀……7

第14回「科学の芽」賞 募集要項……8



春とともに学校生活が始まりました

附属学校教育局 次長 濱本悟志



SATOSHI
HAMAMOTO

今年度も11の附属学校で入学式が挙行され、新たな幼児・児童・生徒・学生、保護者、そして教職員をお迎えしました。ようこそ、筑波大学附属学校群へ。

日本では4月入学が当たり前ですが、世界ではほとんど見当たりません。なぜ雪の多い季節に入試を実施するのか、海外留学や交流を考えて9月入学に変更したら等の意見も聞かれます。その是非はともかく、日本の多くの学校では春夏秋冬の順で学校生活が繰り返されます。

4月当初、各附属学校では必ず学校暦が配られます。それを見ると、季節の移り変わりとともに歳時記のように学校行事が展開し、そこからは各学校のこだわりと学校文化が感じられます。どの時期にどんな学校行事を実施するのか。豊富な教育実践とその評価に基づきながらも、その時代に応える新たな挑戦も登場します。そこには教育上の“ねらい”と成長を促す“仕掛け”があります。その仕掛けが功を奏するかどうか、教職員も保護者もワクワクしながら時にはハラハラしながら見守りますが、多くの行事で子ども達は予想以上の反応や成長を見せてくれます。ポローニアでは記事を通して、そんな子ども達のイキイキした様子をお伝えしたいと考えています。今後とも、乞うご期待を。



平成30年度附属学校教育局主催 教員研修会・附属学校研究発表会を開催

東京キャンパス事務部学校支援課・企画推進課

平成31年2月23日(土)に、附属学校教育局主催の教員研修会及び附属学校研究発表会を東京キャンパスにおいて開催しました。今回は研修会の後に研究発表会を行う合同開催とし、当日は附属学校教員や大学教員、学外関係者など100名近い参加者がありました。

教員研修会は、学内外の教職員及び教育機関関係者を対象に幅広い知見を得ることを目的として開催しており、東京女子体育大学教授(元東京都教育庁教育監)の出張吉訓先生による「学校教育の課題と教育改革の流れ～東京都の公立学校の実践を通して～」と題した講演があり、出張先生の教育行政に携わった経験に基づく貴重なお話をいただきました。

附属学校研究発表会では、各学校における研究取り組みのポスターセッションや、「新たな教育課題に向かってー筑波大学附属学校群からの発信ー」をテーマに、附属学校並び

に附属学校教育局の重点的な施策(先導的教育、国際教育、インクルーシブ教育)から4つの研究発表と、茂呂雄二附属学校教育局教育長による「学習科学の展開と附属学校のしごと」と題した講演が行われ、各学校や教育局での取り組みを知る良い機会となりました。



出張吉訓教授



第44回 日本東洋医学系 物理療法学会が開催され ました

理療科教員養成施設 講師 徳竹忠司

2019年3月9日(土)・
10日(日)の二日間にわ
たり、第44回日本東洋
医学系物理療法学会学
術大会が、理療科教員
養成施設 施設長 緒方



昭広教授を大会長とし、東京キャンパス文京校舎で開催
されました。本学会は、理療科教員養成施設の初代施設
長であります、故 芹沢勝助(せりざわ かつすけ)教授が
創始した学会であります。学会の特長の一つは視覚障
害を有する会員が多く参加していること、学会名が表す
とおり東洋医学的な物理療法に関する基礎研究・臨床研
究を行っているところにあります。なかでもあん摩・指圧
といった「手技療法」と「鍼通電療法」をメインテーマとし
て活動をしています。第44回の大会テーマは「変形性膝関
節症の病態と治療戦略ー鍼通電療法・手技療法・関節
モビリゼーションの実際ー」となっておりました。第1日目は
変形性膝関節症をテーマに3名の演者によりまずシン
ポジウムを行い、次いでシンポジストによる実技セッション
が行われました。

今回は一つの試みとして、「スキルアップ講座」を
開講し、早稲田大学スポーツ科学部 教授の岡浩一朗先
生に「運動器疼痛を有する高齢者への認知行動療法の
応用」と題しました講演を行っていただきました。認知行
動療法は簡単に身につくスキルではありませんが、日々
の臨床活動に役立つ情報の提示をしていただきました。

学会看板



スキルアップ講座を担当された
早稲田大学 岡浩一朗教授



第5回SGH研究大会・ 第22回総合学科研究大会 を開催

附属坂戸高等学校 農業科 建元喜寿



平成31年2月15日(金)および2月16日(土)に「第5回
SGH研究大会」・「第22回総合学科研究大会」を、本校
を会場に開催しました。

SGH最終年度にあたる本大会では、初日にSGクラス
1期生でフィリピンおよびインドネシアに1年間留学してき
た生徒の留学報告会、また「国際フィールドワーク」や「ト
ビタテ留学JAPAN」等、海外における活動を経験してき
た卒業生によるパネルディスカッションを行いました。こ
のなかで、総合学科が持つ人材育成力を再確認しました。
2日目は、本校3年間の学びの軸である1年生「産業社
会と人間」、2年生「T-GAP」、3年生「卒業研究」の1年
間の活動について、各学年の代表生徒が、発表を行いました。
このなかで地域での問題解決活動や大変レベルの
高い卒業研究の報告もありました。2日間を通して、ロー
カルに、グローバルに学びを深め成長していく生徒たち
の様子を垣間見ることができました。

本校のSGHは、平成30年度で5年間の指定を終了し
ました。令和元年度からはWWL(ワールド・ワイド・ラー
ニング)コンソーシアム事業の拠点校として、SGH5年間
の活動で培った国内外のネットワークをさらに発展させ、
大学や附属学校群とも連携を深めながら、「筑坂」の
国際教育活動を新たなステージへ発展させていきたいと
思います。

卒業生によるパネルディスカッション



創立130周年 記念行事

附属中学校教諭(130周年記念行事委員)

栖原 昂



昨年は、高等師範学校附属学校尋常中学科が創設された明治21年から130周年でした。

創立120周年の際は中高合同で記念式

典を行いました。今回は中学校だけで10月20日(土)に保護者代表、卒業生・旧教職員代表の方々をお招きし、在校生・現教職員と共に育鳳館で記念式を行いました。野津有司校長の式辞、同窓会副会長の祝辞に続き、同窓会館の資料室を担当している元副校長の山口正先生による講話があり、第三代校長の嘉納治五郎先生の直筆の書などについての解説に興味深く耳を傾けました。その後、生徒代表の桐陰会委員長高山君の挨拶があり、最後は参加者全員での桐陰会会歌斉唱で式を締めくくりました。また、全校生徒による記念の文字を撮影し、在校生向けの記念品としてこの写真をプリントしたクリアファイルを制作、配付しました。

10月末に行われた学芸発表会でも準備小委員会の企画として附属中学校の歴史をまとめたパネル展示を行ったり、全校生徒でモザイクアートを作成したりと、記念すべき年を生徒自身の手で祝いました。

その他、関連する諸行事として12月8日(土)に同窓会館にてサイエンス作家の竹内薫さん(卒業生)による記念講演会「人工知能(AI)と共存する未来」を開催したり、3月には新しい職業や働き方を紹介した校内パネル展示をPTA・後援会の共催で行ったりもしました。

こうした行事を通して本校の長い歴史と伝統を再確認し、脈々と受け継がれている本校の良さを多くの人と共有できました。今後もこうした伝統を引き継いでいければと思います。



トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム (タイ留学)

附属視覚特別支援学校 副校長 石井裕志

2019年1月4日～23日までの20日間、高等部普通科2年の岩崎悠花、神谷歩未、又吉風歌、三好里奈さんの4人が、以下の目的、日程でタイ留学をしました。

目的

- ・日本の特別支援教育や福祉制度と海外との違いや実態について学ぶ機会とする。
- ・現地の生徒や様々な方々との交流を通して、異文化を学ぶ。また日本文化を紹介する。

日程

- | | |
|-----------|---|
| 1月4日～11日 | コンケン盲学校及びインクルーシブ教育校での授業・研修(全員) |
| 1月12日～17日 | コンケン盲学校及びインクルーシブ教育校での授業・研修(岩崎・又吉)
コンケン盲学校及びインクルーシブ教育校での授業・研修(神谷)
ハジャイ盲学校及びインクルーシブ教育校での授業・研修(三好) |
| 1月18日～20日 | タイ視覚障害者支援クリスチャン財団での行事参加・交流(全員) |
| 1月21日～23日 | タイ国立視覚障害者協会等訪問(全員) |

4人を代表して、岩崎さんの感想を簡単にまとめたものをご紹介します。

「タイで学んだようなインクルーシブ教育システムのもとで、難民のこどもたちも平等に教育を受けられ、生活を営めるような支援ができる環境を作ることに繋がっていくことが、将来の夢です。」



コンケン盲学校の前で



ダンス発表会で「破」るもの

附属高等学校 保健体育科教諭
今西智津子

附属高校では2年生女子の必修でダンスの授業が行われています。約2か月、リズムダンスではなく表現としてのダンスをメインにして取り組み、最後にはクラスで1つの作品を創作します。毎年設定される学年テーマから、各クラスのテーマを設定していくのですが、本当に同じ学年テーマから作ったのかと思うくらい、クラスのカラーが出る面白い作品が作られます。今年度の学年テーマである「破」から、各クラスのテーマは1組「ラブラブアラブ～恋のオイルショック～」2組「La revolution」3組「アナザースカイ」4組「ようこそわが組へ」5組「リビート」6組「ゾンビに負けるな!!」となりました。タイトルだけでも、各クラスの創意工夫が感じられると思います。「破」というテーマ通り、高校生が日頃から感じている自分の殻や世間の縛りなど、様々なものを破るのだという強い意思が見えた今年度のダンス発表会でした。



ハンドサッカー大会2連覇

附属桐が丘特別支援学校 教諭
佐々木高一

平成31年2月16日(土)、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で、第30回東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会が行われました。ハンドサッカーとは、東京都立肢体不自由養護学校(当時)で考案された、ポジションやルールが障害の状態に応じて工夫され、様々な実態のある子供たちが参加できる集団スポーツです。今回、参加校は大会史上最多の20校となりました。

桐が丘では、昨年度大会での優勝から更に発展していけるよう、今年度は高等部だけでなく中学部生徒からも参加希望を募りました。人数が増えたことで、これまで以上に練習の中でお互いを高め合うことができました。大会中も、昨年の優勝を経験した上級生が中心となり、作戦会議やウォーミングアップを主体的に行い、下級生もそれに応える様子が見られました。



こうした練習や大会での生徒たちの努力が実り、大会2連覇につながりました。大会時の詳しい様子は、当校ホームページで掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

(<http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/?p=10630>)



主権者教育(高等部生徒会役員選挙)について

附属大塚特別支援学校高等部 教諭 大宮弘恵

本校高等部では、文京区選挙管理委員会と連携し、政治に参加することとはどういうことなのか、選挙にはどのような仕組みがあるのかなどを学習する主権者教育を行っています。

1月23日(水)、選挙管理委員会職員による出前授業を本校体育館で行いました。また、2月1日(金)には、立会演説会が行われ、多くの職員が見守るなか、実際の選挙で使用する記載台と投票箱などを借用し、投票用紙も同じデザインを使用して、現実度の高い投票を体験することができました。

知的障害のある方々にとっての選挙は、候補者の公約を理解すること、選ぶこと、さらには投票用紙への記載についても配慮が必要です。現在は、障害者差別解消法により、選挙においても障害のある方への合理的配慮が求められています。投票会場では、受付で、投票の補助や代理投票を頼みたいと本人が申告すれば補助者が援助してくれます。障害のある方の家族やその他関係者は補助者になれませんが投票者が指差しなどの方法によって投票したい人を特定したり、必要に応じて選挙公報を見るなどして立候補者の顔を確認したりすることができます。

高等部生徒会選挙では、実際の選挙を想定した「合理的配慮」として職員に補助要員として待機していただきました。書字が苦手な生徒は、代理記載を申し出て、候補者名の「確認と代筆」をしていただきました。高等部では、政治の主体者としての実感が得られるこのような経験の場を今後も大切にしていきたいと考えます。



いま 筑波大学の現在を知る 中学3年生筑波大学訪問

附属駒場中・高等学校 教諭 須田智之



感性デザイン研究室の
皆さんと



久賀先生の全体講演

昨年度は2月7日(木)に、毎年恒例の筑波大学訪問で中学3年生120名の生徒たちがお世話になりました。午前中は、本校OBでもある久賀圭祐先生(筑波大学医学医療系循環器内科教授)に「大学の抱える問題点—大学のグローバル化と日本の大学—」という演題でご講演頂き、今後の大学教育の在り方や海外留学生の受け入れなど、筑波大学が現在取り組まれている大学教育・国際的評価への対応策などについてお話を伺うことができました。

全体講演後の昼食はもちろん大学構内の学食で。普段の学校生活ではお弁当持参なので、学食での昼食メニューを堪能することも、大学生活を知る上での貴重な体験になりました。ハラルフードを提供するレストランがあること等からも、筑波大学の国際化対応や留学生受け入れへの積極的な姿勢が感じられました。

昼食後は時間を前半と後半に分けて、班ごとでの研究室訪問でした。広大なキャンパスをバス等で移動しなければならず、苦勞した生徒たちも若干いたようですが、延べ25の研究室の先生方に快く受け入れて頂き、大学での講義を楽しむことができました。

事後のアンケートでは、全体講演に関しては「中学・高校とは異なった仕組みの大学教育に関してイメージがわき、理解を深めることができた」「グローバル化に対してもっと英語を勉強した方がいいと思った」などの感想が寄せられていました。今後も筑波大学訪問が、最先端の大学教育の一端を示してくれる機会であることを望みます。

大学の学食にて昼食



沖縄修学旅行 ～高等部普通科2年～

附属聴覚特別支援学校 教諭 長島素子



首里城にて

高等部普通科2年生は、2月5日(火)～8日(金)に修学旅行で沖縄に行きました。天候が不安定な4日間でしたが、体調を崩す生徒もなく、全員が全行程に参加することができました。

修学旅行前半は主に、沖縄戦について学ぶ時間となりました。平和講話では、「平和とは何か」などのテーマでディスカッションを行い、生徒たちは皆、真剣に平和について考えていました。ひめゆり平和祈念資料館では、同じくらいの年齢の少女たちや関係者が戦争の犠牲になったことなどを痛感し、摩文仁の丘では、目の前のきれいな海が戦時中は悲惨な景色であったことなどを、神妙な顔つきで考えていた様子でした。

修学旅行後半は、沖縄の自然や文化を楽しむ時間となりました。カヌーは2人1組のペアで行いましたが、スムーズに漕ぐペア、なかなか進まないペア、転覆するペアなどみんなで和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。

修学旅行前に、生徒がそれぞれテーマを決めて、沖縄についての事前学習を精力的に行っていました。しかしながら、実際に現地に赴くことで、本物の沖縄を見て、肌で感じながら学習することの大切さを感じられた、有意義な修学旅行になったと思います。ぜひ、修学旅行で学んだことを今後の生活に活かしてほしいと思います。

摩文仁の丘にて



～季節行事(餅つき)を通した親子交流会～

附属久里浜特別支援学校 教諭(幼稚部主事) 加藤 敦



本校幼稚部と附属視覚特別支援学校幼稚部では、平成24年度から親子交流会を行っています。昨年度は、1月18日(金)に本校で「餅つき親子交流会」を行いました。両校の幼児20名、保護者20名、教員13名が参加しました。まずは各学級に分かれて、遊んだり、朝の会を一緒に行ったりしました。自分の好きなおもちゃで友達を遊びに誘ったり、互いに自己紹介をしたり、年長組のある子供は朝の会で歌っている「うさぎ組の歌」を附属視覚の友達に教えてあげて、一緒に歌っていました。

餅つき親子交流会では、一人で杵を持ち、力強く振り下ろして餅をつく年長組の子供や、保護者と一緒に杵を持って餅をつく年中、年少組の子供など、一人一人が存分に餅つきを体験しました。見ている子供たちも、「ぺったん、よいしょ!」と掛け声を掛けたり、身体を上下に揺らして餅をつく動作をまねしたりして楽しんでいました。また「どすん、どすん」という振動を感じて、「花火大会の時みたい。」と表現する子供もいました。

出来たての餅に、きな粉やあんこ、海苔などを付けて食べたり、保護者が作ったお雑煮を食べたりし、子供たちは大満足の表情でした。「僕は醤油海苔餅が好き!」「A君はあんこ餅をいっぱい食べてたね。」と話をしていました。

体験的な活動を通して交流会を行うことで、親子や子供同士で、楽しい雰囲気や話題を共有でき、一緒に取り組む友達として関わることができました。



「未来」でなくなった ICT活用

附属小学校 教諭 青山由紀

6年前、「未来の教室」という名前の部屋が附属小学校にできました。ICTを活用した授業の開発・研究を行う目的で、児童が一人1台ずつタブレット端末を使用して学習できるよう、前面と側面には巨大なホワイトボード、天井には5台のプロジェクターが設置されています。学習支援システムによって指導者は、手元のタブレット端末で全員の画面をリアルタイムに把握できます。それにタッチするだけで、クラス全体に取り上げたい児童のタブレット画面を前面に大きく投影させることもできます。

算数科では、画面に書いたことを順序まで記憶し再生できる機能をもつデジタルペンで図やグラフの学習に活用

する実践的研究、国語科では学習者用デジタル教科書を使用した授業、総合活動ではレゴやWeDo、Code & Goを使用したプログラ



プログラミング授業の風景



算数の授業風景

ミング教育の研究などに取り組んでいます。2年前には、理科室を同様の環境に整えました。他の特別教室も順次ICT環境の整備を進める計画です。

今の小学生は、幼いときからスマートフォンやタブレット端末に触れて育ってきています。そのため、授業でタブレット端末を使うのを特別と感じる子どもはほとんどいません。今や「未来」ではなくなり、名称もICTルームと変えました。私たちは、ICTは各教科領域のねらいを達成するためのツールに過ぎないというスタンスを保ちながら、そのためのICT環境とはどうあるべきかも研究の対象として、実践研究を進めています。



第14回「科学の芽」賞



朝永振一郎
Sin-Itiro Tominaga

ふしぎだと思ふこと
これが**科学の芽**です
よく観察してたしかめ
そして考えること
これが**科学の基**です
そうして最後になぞがとける
これが**科学の花**です

第14回
朝永振一郎記念

科学の芽賞

募集!

募集期間 2019年8/19日(土) ~ 9/21日(土)

作品募集 朝永先生の言葉のように自然現象の不思議を発見し、観察・実験して考えたことをまとめてみましょう。素直な疑問や発見があるものを募集します。

応募資格 小学校3学年～、中学校、義務教育学校、高等学校(高等専門学校3年次までを含む)、中等教育学校、特別支援学校の個人もしくは団体(小学生は個人での応募が可能です)

作品内容 レポート用紙(A4判 片面) 10枚以内
(※表裏、フタに印刷は不可。また、A4判・縦向きに印刷し、必要に応じて図表を添付します)

審査方法 筑波大学教員、筑波大学附属学校教員及び後援団体関係者などが審査・選考

募集期間 2019年11月下旬、筑波大学ホームページに掲載
(※募集要項には変更の可能性があります。募集要項は筑波大学ホームページに掲載します)

賞・記念品 「科学の芽」賞の受賞者には学長より賞状と記念品を贈呈(その時、賞状と賞状が添付されます) ※応募者全員に賞状は贈呈しません

表彰式・発表会 2019年12月21日(土) 於・筑波大学学生会館

応募方法 附属学校教育課ホームページ(Url: <http://www.gakko.tsukuba.ac.jp/>)内の「科学の芽」賞のページ(申し込みフォーム)より必要事項を入力し、出力されたPDFを作品の一番上に貼り、下記住所までご送付ください。
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学「科学の芽」賞実行委員会
(〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学「科学の芽」賞実行委員会)

連絡先 筑波大学
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学「科学の芽」賞実行委員会
(〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学「科学の芽」賞実行委員会)

お問い合わせ先 03-3942-6806
筑波大学「科学の芽」賞実行委員会(学校本部内)
E-mail: kagakunome@tsukuba.ac.jp
詳しくは、筑波大学ホームページ(「科学の芽」賞)を参照
<http://www.tsukuba.ac.jp/community/kagakunome/index.html>

「科学の芽」賞に輝いた作品集
発行：筑波大学出版局

vol.1 2004年6月発行
vol.2 2010年9月発行
vol.3 2012年6月発行

筑波大学
University of Tsukuba

問 <http://www.tsukuba.ac.jp/community/kagakunome/index.html>

●広報誌名「ポローニア」の由来

「ポローニア」とは、「桐」の属名であり、Paulowniaと綴る。本誌を「ポローニア」と名づけたのも、筑波大学の紋章に「五三の桐」が使われていることに拠る。しかし、ポローニアを付与した理由が他にも存在する。近代西洋医学を日本に伝えたシーボルトは、日本において、桐が瑞祥の象徴と見なされ、皇室をはじめ高貴な家柄の紋所として用いられていることを知り、Paulownia(後援者のオランダのパウロウナ公妃に因む)こそが植物の桐のイメージを表現していると考え、桐の学名(Paulownia imperialis)に定め、パウロウナ公妃に献呈した。今後いつまでも、多数の読者に愛され続けることを願い、ポローニアの故事来歴やエピソードに基づき、ポローニアと命名した。

ポローニア
paulownia

vol.45

発行日……令和元(2019)年5月31日

発行者……附属学校教育局教育長 茂呂雄二

発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
広報戦略推進委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 電話 03-3942-6800

デザイン……スピーチ・バルーン

印刷……広研印刷 使用紙: U-Jimax [日本製紙]

